

内灘・西荒屋 食べやすい柔らかさに

ピーナツ丸餅好評

内灘町西荒屋の地域おこし団体「西荒屋営農促進会」が、ピーナツを入れた柔らかい丸餅を考案し、好評を集めている。道の駅や病院に並べた日の午前中に完売するほどの人気で、大阪や滋賀など県外からも注文が舞い込む。同会は月内に地元の製造販売所前へのぼり旗を掲げ、町特産「ピーナツ餅」をアピールする。

ピーナツ餅は、内灘砂丘の畑で採れたピーナツを砕き、地元で収穫したもち米と混ぜ合わせた餅で、地元では昔から子供のおやつとして親しまれている。餅の甘みとピーナツの香ばしい風味が特長となっている。

西荒屋営農促進会は、ピーナツ餅を使った地域振興を目指しており、買ってすぐに食べられる新商品を出す

午前中に完売 県外から注文

そうと、昨年10月に直径6センチの丸餅を作った。1個と2個の各パックを用意し、地元の販売所や金沢医科大学病院、道の駅「内灘サンセットパーク」などで販売を始めた。

通院患者が待ち時間のおやつにしたり、町外から訪れた人が手軽に食べられる内灘の特産品として買うなどして、仕入れた日の午前中で売り切れるほどの好評



ピーナツ餅を袋詰めする
会員 西荒屋内灘町

となった。同会は2014年から餅の販売を始め、昔ながらの焼いて食べる角餅を販売していた。丸餅が好評となっ

たことで西荒屋の製造販売所の場所を聞かれることも多くなり、今月中に販売所の場所を周知するのぼり旗やホームページを作り、メ

ールでの注文受け付けも始めることにした。川辺俊一代表(72)は「ピーナツ餅を全国に発信していきたい」と意気込んだ。

西荒屋営農促進会のおもちが

2016年(平成28年)

1月9日土曜日

北国新聞朝刊で

紹介されました!